

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 総 第 16 号	氏 名	吉岡 一洋
審査委員	主 査 宮崎 隆義 副 査 岸江 信介 副 査 依岡 隆児		
学位論文題目 社会における地域芸術の役割と振興について —絵師・金蔵とギュンター・グラスの芸術を事例として—			
<p>審査結果の要旨</p> <p>提出された論文は、地域芸術を定義し、そのあり方と本質について考察している。社会における地域芸術の現状と問題点を整理し、絵金（絵師・金蔵）とギュンター・グラスという芸術家を中心に地域芸術の役割・本質を考察し、地域の伝統的な芸術の意義を解明するとともに、地域に根付く芸術を育成していくために教育の面からの提言を行っている。</p> <p>筆者は大学において高等教育や生涯教育に携わる中で、地域芸術が生涯教育にも広い意味で接続していることを理解し本研究に着手したのだが、その目的として、①社会における地域芸術の現状と問題点を整理する。②絵金とグラスという芸術家を中心に地域芸術の役割、本質を問う。③地域の伝統的な芸術の意義を明らかにし、地域に根付く芸術を残して行くために教育の面から考察する、ということを掲げて、各章で考察している。「地域芸術の役割と振興」について、美術・デザインの動勢、大学教育を取り巻く環境の変化にあって、地域芸術の醸成には、地域の中で時間をかけた情操の涵養が求められており、少子高齢化の中で地域の減退に直面するなかで地域芸術振興のためには行政・文化施設・大学などとの協働が重要となると結論づけている。</p> <p>本論文の学術的独自性は、自らの美術の地域における実践活動例を踏まえて、絵金とグラスのその生涯に着目し、ライフヒストリーから作品を解釈し、そのことを地域芸術の解釈に援用する点にある。地域芸術の醸成には単発のイベントやプロジェクト・モデル型の取り組みではなく、地域芸術のジャンルを体系的に理解し、価値観を享受していきながら、表現活動する芸術家の理解と地域の人々を結ぶことが社会における地域芸術の役割であるとする点に、新しい知見を示している。さらにこうした研究結果をもとに、大学、行政、文化施設との協働を提言しており、社会的意義も認められた。</p> <p>以上の研究成果は、日本比較文化学会の学術雑誌「比較文化研究」に掲載された2本の論文の他に、多数の論文と著作として発表されている。</p> <p>本論文は、地域芸術の役割と振興について、自らの実践活動に裏付けられた見識を示し、具体的な地域における課題に応えようとするもので、地域社会における地域芸術が大学をはじめとする組織との協働を提言している点で学術的かつ社会的価値があるものと評価できる。したがって、本論文は総合科学教育部の博士論文として一定の水準に達するものであり、博士（学術）の学位に相当するものであると認められる。</p>			